

会 議 録	
会議の名称	令和3年度清須市地域公共交通会議 専門部会
開催日時	令和3年8月23日（月） 午後2時から午後3時40分まで
開催場所	清須市役所北館2階 第1・第2会議室
議題	1 開会 2 議事 コミュニティバスの運行計画見直しに向けた検討について 3 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席表 〔会議資料〕 資料 コミュニティバスの運行計画見直しに向けた検討について 参考資料 コミュニティバスのルート・ダイヤ改正に向けた検討事項（案）
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、傍聴を中止としました。
出席委員	前田委員、山田委員、林委員、佐藤委員、柴田委員、加藤（榮）委員
欠席委員	鬼頭委員
出席者（市）	なし
事務局	（企画部企画政策課） 後藤次長兼課長、炭竈企画政策係長、西田主任、次森主任、市江主事
会議録署名委員	佐藤委員、柴田委員
<p>1 開会</p> <p>（炭竈企画政策係長） ただ今から、令和3年度清須市地域公共交通会議専門部会を開会いたします。 私は、本日の進行を務めさせていただきます、企画政策課の炭竈と申します。 それでは、開会にあたりまして、前田会長からごあいさつをいただきたいと存じます。前田会長、よろしく申し上げます。</p> <p>（前田会長） 皆様、こんにちは。本日は、大変お忙しい中、令和3年度の清須市地域公共交通会議の専門部会へご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p>	

さて、本日は、来年の10月に予定しております、ルート・ダイヤ改正に関する改正素案についての協議が議題となります。

去る6月9日に開催した第1回会議で、委員の皆様にご提出をお願いしたルート・ダイヤ改正に向けた検討事項案に係る意見シートをもとに、協議を進めていきたいと思っております。

また、本日は専門部会ということで、市民目線での協議を深めるため、市民と利用者の代表である委員の皆様だけで開催いたします。市民の立場で、よりよいルート・ダイヤになるようご意見をいただければと思います。

本日はよろしく申し上げます。

2 議事「コミュニティバスの運行計画見直しに向けた検討について」

(炭竈企画政策係長)

ありがとうございます。続きまして会議の出席状況についてご報告します。本日は鬼頭委員がご欠席されておりますので、ご報告させていただきます。

また、本日は、あしがるバスの運行計画見直しに携わっていただいております、株式会社日本海コンサルタントの塩土様にご同席いただいております。

それでは、これより議事に入りますが、ここで、事務局からお願いがございます。当会議の議事録を作成する関係上、会議でのご発言にあたっては、次の2点についてご協力をお願いします。

まず1点目ですが、ご発言にあたっては、必ず挙手の上、事務局の指名を受けてください。

続きまして2点目ですが、事務局の指名を受けた方に、係の者がマイクをお持ちしますので、その都度、ご自身のお名前を仰ってから、ご発言いただくよう重ねてお願い申し上げます。

なお、委員の皆様には、マスクの持参・着用にご協力をお願いしたところですが、事務局におきましても、マスクを着用させていただきます。

続きまして、本日の会議の会議録署名委員についてですが、座席順に佐藤委員と柴田委員をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事に入ります。

本日の議事につきましては、お手元の次第のとおり、協議事項が1件です。

それでは、本日の資料「コミュニティバスの運行計画見直しに向けた検討について」こちらを、担当よりご説明いたします。

(市江主事)

【資料を説明】

(炭竈企画政策係長)

ただいま、事務局から資料の説明をさせていただきました。なお、これから皆様に議論をしていただくのですが、今回は、オレンジ・グリー

ン・サクラ・ブルーの順で各ルートごとに協議をしていただき、その後、乗合タクシーについての協議をしていただくという流れで進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

ではまず、オレンジルートについて、ご説明いたしました内容にご意見、ご質問等がございましたら挙手をお願いします。

山田委員、お願いします。

(山田委員)

山田です。最近の会議の議論では、時間短縮を重視する意味合いが強いように感じているのですが、本来、あしがるバスは、皆さんの足になるような経路を作ろうということから始めたわけですね。清須市は色々なところへのアクセスが悪いとか、そういった課題があります。そこで、最初は200mおきに停留所を作ろうとかそんなことをやってきたと思うのですが、現在は、あしがるバスの趣旨が変わってきたのでしょうか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

事務局の後藤です。今、山田委員がおっしゃられた本来の経緯というのは、その通りだと思います。ただ、趣旨が変わったというより、利用者のニーズが当初の設定から変わってきたというのが正しいのかなと思います。一度バスに乗ってから目的地に着くまでの時間の短縮を求められる意見が多いです。

現在は、各ルート1周50分前後で運行するダイヤになっているのですが、元々は、色んなところにバスで行けるようにルート・ダイヤを設定していました。ただ、実際にバスを利用される方々の意見を聞くと、乗っている時間が長くてつらいという声もあります。現実には、今のダイヤは、元々3ルートだったのを4ルートにしたことで、1ルートの運行時間を短縮してきたという経緯があります。

従って、確かに山田委員がおっしゃられるように、元々の趣旨から考えると、今はどちらかと言うと、利用者ニーズに合わせた運行経路になっているかなと考えております。

今回も、オレンジルートの話でいきますと、清洲城と清洲市民センターを統合するという案を出させていただきました。これについては、清洲市民センターのバス停が当初設定したところと場所が変わっている関係で、今は非常にいびつな運行経路になっています。

どういうことかと言いますと、資料の拡大図②東行にお示ししておりますように、現在、バス停位置の都合上、清洲市民センターの周りを1周するような経路になっています。そこで、このバス停は清洲城のバス停が近いということで、それを統合することで、時間短縮ができたかなと思っております。バス停を統合することによって様々なご意見をいただくこともあるかと思いますが、今の経路は乗っている方からも疑問を抱かれる状況ですので、この案を出させていただきました。

また、後で詳しく説明しますが、私は当初、オレンジルートを枇杷島駅の西口に乗り入れるという案も考えておりました。ただ、こちらにつきましても、現状の利用者ニーズを考えると、オレンジルートはアオキ

スーパー側に乗り入れたほうが利便性が高いという専門家の意見を聞いた中で、やはりオレンジルートは東口につけたほうがいいんじゃないかということで、今回の協議からは一度外させていただきます。

また、後から出てくる清洲総合福祉センターに、清洲地区や新川地区の方が行きたいと言った場合に、現状では直通するバスがないものですから、何とかどこかの路線をつけたいなど考えていました。後でサクラルートの話の中で出ますので、これが良いか悪いかというのも後ほどご意見をいただきたいと思っております。

少し話が逸れてしまいましたので、話を戻します。山田委員がおっしゃった当初の考え方に対して、今の考え方というのは、バスに乗っている方の利便性を向上するために、時間を短くしていきたいという考え方が一部あるとご理解いただければと思います。以上です。

(炭竈企画政策係長)

ほかにご意見等ございますでしょうか。

(市江主事)

それでは、ここで、本日欠席しております鬼頭委員からご意見をいただいておりますので、ご紹介させていただきます。

まず、キリンビールのバス停について、バス停が敷地内に入っていることで時間ロスに繋がっているため、廃止したほうが良いのではないかというご意見です。

こちらにつきましては、先ほど説明しました通り、清洲城付近で時間短縮を図る見直しを考えていることや、現在は新型コロナウイルスの影響で工場見学が中止になっているものの、今後再開した場合、一定数のアクセス需用があると想定されることから、バス停は残す方向で考えております。

また、現在、オレンジルートのみ西行きが偶数便となっているため、西行きを奇数便、東行きを偶数便と統一したほうが良いのではないかというご意見もいただきました。

こちらにつきましては、あしがるバスの場合、西行き、東行きと便数を関連付けているわけではなく、始発から何便目かという考えで便数を設定しておりますので、変更しない考えです。

(炭竈企画政策係長)

オレンジルートについて、ほかにご意見等はございますか。

それでは、オレンジルートにつきましては、ご承認いただくということでよろしいでしょうか。

[異議なしの声]

ありがとうございます。

続きまして、グリーンルートについて、ご説明いたしました内容に、ご意見、ご質問等がございましたら挙手をお願いします。

山田委員、お願いします。

(山田委員)

山田です。グリーンルートについては、確かに、桃栄跨線橋が開通したのでそちらにバスを通すという前回の案も理解できるのですが、実際には民家がありお年寄りが多く住んでいるのは美濃路だと思いますので、現状の経路で十分だと思います。

(炭竈企画政策係長)

ありがとうございます。他にご意見ございますでしょうか。
林委員、お願いします。

(林委員)

林です。今のグリーンルートの美濃路の話で、以前は私が住んでいる美濃路にもあしがるバスが通っていましたよね。ただ、それは、当時どういう理由だったかあまり正確な記憶がありませんが、バス停があると車が混雑して通行の妨げになるとか、そういった理由で通らなくなったのだと思います。

昔はあの通りも賑やかな商店街で、若い方が多く住んでいましたが、今は世代が変わって、高齢のひとり暮らしの家がうちの町内だけで20軒くらいあります。そういう方々が買い物に出掛けるのを見ていると、大変苦勞していて、押し車を押したり、歩ける人は歩いて、歩けない人は息子さんに時々連れて行ってもらったりしています。どこまで出掛けるのと聞くと、ヤマナカまで行くと言って押し車をごろごろ押ししてみえる人もいます。

うちも自営業で、色々な人がみえますので、お年寄りの人なんかには話を聞くと、お宮さんのところにバス停がありますので、そこまで行かれる方もいます。大抵、皆さん初めは美濃路にバス停があると思って、よくうちに聞きにみえました。なので、バス停の場所を教えるのですが、そこまで行くには坂があって危ないので、美濃路にバス停があるといいなという声も聞きます。ただ、そういう以前の事情があるので、今は多分こういう理由でバス停がないから、バス停があるところまで行っていたくのがいいんじゃないかなと案内しています。

清洲地区のほうは区画整理されて、道も広くて、バスが通るにもバス停を置くにも問題ないかと思いますが、こちらの旧街道は江戸時代からの建て方で残っているので、どうしても、狭い道の奥に家が建っていたりします。そういう人たちを助けてあげるという方法はないのかなと思っています。乗合タクシーという話も出ていましたが、復活といえますか、あそこを通すというようなことはできないのでしょうか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

事務局の後藤です。今、林委員がおっしゃられることはよく分かります。美濃路を通らなくなった経緯を正確に把握していないのですが、おそらく、道幅の問題と利用者の減だと思います。

確かにそのあたりだと、乗合タクシーというのでも、待機する場所がないものですからなかなか難しい現状があります。何かいい手がないか考

えています。現状であしがるバスを通すというのも難しいかなと。そうすると、他の何かを施策として考えていく必要があるのかもしれませんが、公共交通の中で、タクシーの利用に助成を出すという議論はしていません。現状では、障がい者の方を対象に行っております。そういう施策が出てくるのかというのは今後議論していく余地があると思いますが、今、公共交通の中で考えられるのは、バスの延伸よりは、そういった乗合タクシーくらいですかね。

(林委員)

あしがるバスでは難しいと思うので、乗合タクシーの待機場所をどこか決めておいて、そこまで出てきてもらうとか、そういう方法で考えないといけないと私も思います。今の状況では、皆さん80歳から90歳、一番上の方では95歳だったかと思いますが、そんな方が車が通るところを避けながらふらふら歩いて行くのを見ていると、何か方法はないものかなと思います。

もちろん家族が見てあげるのが一番良いのですが、今の時代は別々で住んでいることが多く、なかなかそうもいきません。親御さんだけで住んでいると、若いうちは良いですが、高齢になると大変です。

施設のバスはたくさん来るんです。あしがるバスと同じような大きさのバスが。それと、幼稚園のバスもよく来るので、それで軒並み車が詰まって、朝なんかは大渋滞です。なので、そこへあしがるバスを通すというのは無理だなと思っていますが、何とかしてあげないと、お年寄りが孤立してしまいます。

一番怖いのは、連絡を取り合える環境がないと、変だなと思って中を見に行ったら亡くなっていたという場合です。最近はそのようなことがちょこちょこあると聞きますので、その対策も兼ねて何かあるといいです。そういうときのために、日本の良い文化だと思いますが、日頃の付き合いで隣近所と時々顔を合わせて、あそこはひとり住まいだからたまに声をかけてあげてねということを行うにはしています。

うちの女房も民生委員を30年、40年やっていたので、その繋がりで見える方は多いです。福祉関係の用事があるときには総合福祉センターなりに行ってお話を聞いてもらって説明するのですが、本人がひとりだけで住んでみえる人が結構いるんです。

そうすると、食べるものだけは買いに行かないといけなくて、うちのあたりだとアオキスーパーが一番近くて、そこを使われる方が多いです。ただ、そこまで行くとなると、昔はもっと小さい店があったので良かったのですが、今はもうないので困っている方は多いと思います。コンビニで済ませれば良いと言えばそれまでですが。

私自身も後期高齢者で、うちにみえる方々とそう変わりません。私はまだ元気なので良いですが、足がないと困るなという気はしていますので、将来的にそういうことも考えていただけるといいなと思います。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

後藤です。今の話とは少し変わってしまうかもしれませんが、買い物難民というのは前から随分問題になっています。行政がやっている話で

はありませんが、あのあたりに、移動販売車が来ていたと思います。今もやっているのかどうか分かりませんが。

(林委員)

今はやっていません。ヨシヅヤなんかはやっていましたが、半年くらいで辞めてしまいました。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

そうですか。ヤマナカさんもやっていましたよね。

(林委員)

はい。あと、文造寺の交差点のところにキュートきよすという八百屋さんがあって、結構便利だったのですが、そこもなくなってしまいました。なので、あのあたりは日用品が買えるようなところが一切なくなってしまいました。

清洲越しのときには大名行列が通っていった由緒ある美濃路なんですけど、昔は栄えていて、人もたくさんいて、商店も20年くらい前までは40軒程ありました。私は今も現役でやっていますが、今はもう3軒くらいしかありません。

八百屋さんと肉屋さんとか、食料品が買えるところだけでもあると良いですが、それもないので、スーパーとかに行かないと買えない状況です。そうしたら、先ほど言っていた移動販売車が来たので、これがあればバスが通っていなくてもいいやと思っていましたが、それもまた無くなってしまって、皆さんうちに来て、これじゃまた遠くまで買いに行かないといけないと言われます。いわゆる買い物難民です。古い町並みだと、そういうことが出てくる可能性があります。

清洲のほうの区画整理をしている新しい地域ならば、新しい家も建て、道路もきれいに整備されて、住んでいる人も若いファミリーが多いので、バスを通したりすれば、利用者も増えると思います。

ただやっぱり、新川や西枇杷島の半分くらいは古い地区なので、道路が狭いし、バス停を置けるところがないんですよね。仮にバスを通してもらうとしても、広いところまで出ていかなければいけません。県道に出ていくにも、10月から橋の架け替え工事が始まるので、また大混乱になるでしょうし、そういうこともあって私も気にしています。

会議の内容とは少し離れるので、こういう場で言って良いのか迷いましたが、今日は専門部会ですので、お話しさせていただきました。そういうこともあるということを入れていただけると助かります。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

ありがとうございます。確かに、あしがるバスで何か解決できればというところとは少し異なりますが、違う意味で参考意見とさせていただきます。

(炭竈企画政策係長)

ほかにご意見等はございますか。

それでは、グリーンルートにつきましては、ご承認いただくということでもよろしいでしょうか。

〔異議なしの声〕

ありがとうございます。

では次に、サクラルートについて、ご説明いたしました内容に、ご意見、ご質問等がありましたら挙手をお願いします。

加藤委員、お願いします。

(加藤委員)

加藤です。ダイヤについては、これからも同じ時間でしょうか。例えば、ヨシヅヤは41分なら41分に今後も来るようになるのでしょうか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

事務局の後藤です。サクラルートのダイヤは、少し変わる可能性があります。今回の資料にお示ししております、清洲総合福祉センターに寄るという案を採用すると、今の時間とは変わってくる可能性があるのですが、その場合は、しっかり周知しなければいけないと考えています。

(加藤委員)

実は、この案が出たときから、お年寄りにはなかなかバスの時間を覚えにくいので、同じ時間でやっていただくと、こんなに有り難いことはないと思っています。

ところが、今のダイヤでも、ヨシヅヤに行くためにサクラルートを往復で使う場合に、11分に着いて、帰りに41分のバスに乗ろうと思うと、とてもじゃないけど間に合わないんです。その次のバスであれば2時間空くのでいいですが。

というのは、大売り出しだとか、日にちや曜日によりますが、レジがすごく並ぶことがあるんです。さらにお年寄りが多いために、モタモタして、時間が足りないんです。ただ、バスのほうも、10分くらい遅れてくることもあるんですが、ダイヤ上は41分なので、そこに間に合わない、皆さん買い物が終わって、あと2時間もどこにいればいいんだということになってしまいます。

若い方は色々なお店を見たりして、2時間あってもそれなりの楽しみ方をしているようですが、私を含め、お年寄りにとっては、乗り遅れた場合に2時間待たなければいけないというのは大変なことです。ですから、せめてあと15分、間が空くと助かります。ヨシヅヤはとにかく混むんです。

また、ヤマナカで降りた場合、信号に引っかかるとそこで少し待たなければいけません。それから買い物をして帰りにまたバスに乗ろうとすると、こちら時間も足りないんです。ですので、信号待ちをしても間に合うだけの時間をとっていただくと、お年寄りはとても助かります。

また、サクラルートは、時間調整のためだと思いますが、清須市役所で3分待つんですよね。皆さん、急ぐときはこの3分がすごく長いと言われます。特に時間を気にしないで乗っているときは良いですけど。また、市役所で走ってバスに乗ってくる人はいないということも言われます。市役所へは車で来る方が多いですから、若い方はここではあまりバスに乗らなくて、バスの利用者はお年寄りばかりで、皆さん時間を気にして早くから待っているそうです。だから、その3分は必要ないと言われます。ただ、その3分は時間調整のためのものですから、それは仕方ないと思うと話しておいたのですが、そのあたりも少し考えていただけると有り難いです。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

ありがとうございます。そうですね、清須市役所での3分は、オレンジとグリーンとの乗り継ぎの関係があるものですから、致し方ない繋ぎの時間になるのかなと思います。

それから、ヨシヅヤについてですが、加藤委員がおっしゃられるのは、バスでヨシヅヤに着いて、買い物をして帰りにまたバスに乗ろうと思うと、間が30分しかないという話ですよ。この時間の調整についても、ヨシヅヤで3ルート揃うようダイヤを組んでいるものですから、1つ変えると他も全部変わってきてしまいます。今後ダイヤを組む中で、日本海コンサルタント様に頑張ってはいただきますけれども、現時点ではそれができるか否かはつきりお答えできませんので、参考意見として承ります。

(炭竈企画政策係長)

ほかに、サクラルートについてご意見等はございますか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

それでは、ここで、先ほど事務局からご提案しました件について、皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

皆様が把握している中で、新川、清洲、西枇杷島地区の方から、清洲総合福祉センターに行きたいけれどバスがないというお話を聞かれたことはありますか。

(林委員)

あります。高齢だと、自転車で行こうとしても遠いことと時間もかかって大変なので、バスがあるといいなという声は聞きます。私も商売をやっていますが、半分くらいはお年寄りなので、自転車に乗るのも危ないという話もしています。

ただ、じゃああなたは総合福祉センターまで何で行くのと言われると、私は車で行けますが、それを言ってしまうと、じゃあ乗せていってよという話になるのであまり言えません。なので、あしがるバスを乗り継げば行けるよと案内はしています。皆さん高齢の方なので、多少時間がかかっても目的地へ行ければいいので、もう少し別のルートでも行けるように考えていただけると有り難いです。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

社会福祉協議会があそこにあるものですから、やはり需用は高いですね。包括支援センターも清洲総合福祉センターの1箇所ですし。

(林委員)

そうですね。包括支援センターに行きたいという場合が多いです。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

ただ、新川、西枇杷島地区の方については、2年後に西枇杷島地区のさわやかプラザの中に包括支援センターができる計画になっています。それができると、包括支援センターに行けないという課題はだいぶ解消されるかと思いますが、現状ではまだそういった課題あるということです。

(林委員)

そうなんですか。今は、総合福祉センターがもとの清洲庁舎よりもさらに遠いので、行きにくいです。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

それで、今の話ですが、ブルールート以外では、サクラルートが唯一総合福祉センターに繋げるかなと考えています。前回の平成30年10月のルート・ダイヤ改正をしたときに色々なご意見がありまして、サクラルートをバイパスで使うようになるから、あまりたくさんの方に寄らない方が良くという考えから、総合福祉センターを外したという経緯もあるそうです。

ですので、オレンジルートで何とか行けないかなと考えたんですけど、現状のオレンジルートのバス停を廃止するのは難しいので、最初の案で、市役所を飛ばして枇杷島駅の東口まで行くというのを考えました。ですが、市役所を飛ばすというのは、不便になってしまう方もおられるので、やはり市役所には行きたいと。そうすると、枇杷島駅の西口はどうだろうという話をしましたが、それは東口に行っていることに意義があるだろうということで、オレンジは駄目でした。

そんな中で、バイパス的な役割を果たしているサクラルートでなんとか寄れないだろうかということで、実車ベースではまだやっていませんが、何とかできるんじゃないかと思っているので、それで総合福祉センターにサクラルートを乗り入れるという案を出させていただきました。

(林委員)

市役所はオレンジルートでも通さないと、市民の需用が高いですからね。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

その時の案では、枇杷島駅の東口に行きますので、そこでサクラルートに乗り換えてもらって市役所まで来ていただくことを想定していま

したが、清洲地区から来られる方からすると、市役所を一旦通り過ぎて枇杷島駅まで行ってまた戻ってくるというのも難しいと思うものですから。

実際、オレンジルートの市役所と新川福祉センターの利用が多いので、そこを廃止するのは難しいということで案として出さなかったわけですが。

(林委員)

利用が多いということは、高齢の方がバスで多く利用されるということですので、そういうところも大事ですね。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

前回のルート・ダイヤでのバイパスという意味を少しねじ曲げる形にはなってしまうのですが、今回林委員がおっしゃられるように、総合福祉センターに行きたいという意見があるものですから、現状のブルールート以外で総合福祉センターに行くルートを考えると、今はサクラルートしかないのかなと思います。

(炭竈企画政策係長)

他にサクラルートのご意見ありませんでしょうか。
前田会長、お願いします。

(前田会長)

前田です。他のルートとの兼ね合いで、要望としてお願いしたいことがあります。今、サクラルートがゆうあいリハビリクリニックからクスリのアオキを通ってはるひ呼吸器病院に行っていますよね。これを、ゆうあいリハビリクリニックから、東の方のペガサス春日・平安の里や上之切児童遊園東を通ってはるひ呼吸器病院に行き、夢広場はるひまで行くルートにしていきたいです。

ブルールートについても、要望ですが、今、左回りのみのルートですが、その中で1つ、ヨシヅヤから夢広場はるひ間を往復していただけると、ブルールートに乗っている時間が短くなるのではないかなと思います。

私の個人的な意見としてお聞き願いたいと思います。以上です。

(炭竈企画政策係長)

ありがとうございました。サクラルートについては、他によろしいですか。

それでは、サクラルートにつきましては、今、色々ご意見いただきましたので、事務局で再度検討させていただくということでよろしいでしょうか。

[異議なしの声]

ありがとうございます。

続きまして、ブルールートについて、ご説明いたしました内容に、ご意見、ご質問等がありましたら挙手をお願いします。

(市江主事)

それでは、ブルールートにつきましても鬼頭委員からご意見をいただいておりますので、ご紹介します。

ルート・ダイヤ改正に直接は繋がらないのですが、今、ブルールートの時刻表が春日公民館発着となっています。ですが、実際は、ヨシヅヤ清洲店で長く待機時間を設けているので、ヨシヅヤ発着の表記としたほうがいいのではないかというご意見です。

こちらにつきましても、時刻表を作成する際に、その点も踏まえて検討したいと考えております。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

加えて、このブルールートにつきましても、本日皆様からご意見をいただきたい点があります。最初の意見シートであった話なのですが、落合と落合公会堂を統合するというご意見です。こちらについては、春日地区の方でないとなかなかイメージが付きづらいと思いますので、少し説明させていただきます。

ブルールートに落合公会堂というバス停があって、その次に落合というバス停があります。この2箇所を統合しようと考えた経緯ですが、落合公会堂まで行く場合、道がかなり狭くなっています。そこで、その1本手前を曲がって落合のバス停に行くと、バスが通りやすいので、統合してみたらどうかという意見が出ました。

ただ、この2つのバス停の状況を見ると、落合公会堂のほうが利用が多いものですから、やはり落合公会堂は外せません。また、落合は、必ずその経路を通らなければならないものですから、言い方が悪いですが、あってもなくてもさほど影響がなく、時間短縮に繋がりません。ですので、現状では両方とも残したいと考えています。

次に、清洲総合福祉センターです。こちらについては、時刻表を見ていただくと分かると思いますが、ブルールートは循環ルートだと言っているにも関わらず、ヨシヅヤへの行きも帰りも総合福祉センターに寄ることになっています。これを、出来れば行きだけにして、帰りは寄らずに、ゆうあいリハビリクリニックに出た方が、若干ですが時間短縮できます。

現状の話をしますと、4ルートの中で、今一番時刻通りに回れないのがブルールートなんです。一番短いエリアを回っているにも関わらず、時刻通り回れていないので、こちらの時間短縮をしたいと考えています。総合福祉センターを1回外すことによって、少しですが時間短縮ができますので、今回、ルート変更の提案をさせていただきます。

また、蓮花寺のバス停の廃止については、もともと少し危ないなど思っていたバス停なんですけれども、利用者もブルールートの中では一番少ない状況です。バスもなかなか停まりにくい位置になっていますので、このバス停の廃止については、それほど問題がないのかなと考えています。また、西市場一丁目も、帰りについては廃止してもいいんじゃない

ないかなと考えています。

ブルールートは基本的に今の循環経路がなかなか短くできないもの
ですから、総合福祉センターを1回寄らなくして、サクラルートでそれ
をカバーするということが何とかいけなかなと今は考えています。

完全に総合福祉センターを外すというのは難しいものですから、ヨシ
ヅヤに向かっていく往路については総合福祉センターに寄って、復路に
ついては総合福祉センターを外していきたいなということでございま
す。

(炭竈企画政策係長)

その他、委員さんからよろしいでしょうか。

加藤委員、お願いします。

(加藤委員)

私は、サクラルートを使うことがほとんどなのですが、以前、はるひ
呼吸器病院に行ったときに、思ったよりも早く診察が終わって、帰りは
サクラルートよりもブルールートのほうが早くバスが来たので、ブルー
ルートに乗ろうとしました。そうしたら、ドライバーの方から、このルー
トはぐるっと回っていくから時間がかかると言われました。そこまでは
いいんです。ただ、せめてそこで、時刻表を渡していただくとか、ヨシ
ヅヤだったら何時に着きますよということくらいはおっしゃっていただ
ければ良かったなと思います。やはり、初めて行ったところは分かり
ません。

でも、ブルールートはおそらくこの1回しか乗らないのに時刻表を頂
戴と言うのも、経費がかかっているしと思って言いにくかったので、言
いませんでした。ただ、ワクチン接種でもう1回行くんだということ
を思い出して、貰ってくればよかったなと思いました。

もし、バスの使い方をあまり知らない人が乗ったとしたら、何時頃に
ヨシヅヤに着きますよとか、どこまで行かれるんですかとか、そうい
ったことを聞いていただけると、サービスに繋がって、バスでまたどこ
かに行ってみようという気になるんじゃないかなと思います。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

分かりました。ただ、運転手も良かれと思って言ったかもしれませんが
ね。バスに乗っている時間が、サクラルートだとヨシヅヤまで約10分
ですが、ブルールートだと30分かかりますので。

(加藤委員)

ただ、サクラルートのバスが来るまでに1時間あったんです。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

なるほど。バスに乗る時間だけ考えると、サクラのが早いですが、ヨ
シヅヤに着くのはブルーのほうが早いということですね。

(加藤委員)

そうです。西春のほうへ行くバスはあるんですよ。でも、家へ帰るのに一度西春駅まで行って、電車に乗って名古屋駅で乗り換えてというのは時間がかかるので、それならバスを待っていたほうがいいです。ただ、バスの乗り方をあまり知らない人にとっては、こうしたらいいよと言っただけだと大変助かるなと思います。

(炭竈企画政策係長)

ありがとうございました。ほかにご意見等はございますか。

それでは、ブルールートにつきましては、ご承認いただくということでもよろしいでしょうか。

[異議なしの声]

ありがとうございます。

加藤委員からいただきましたご意見については、運行事業者にしっかりと話をしておきますので、よろしくお願ひします。

続きまして、乗合タクシーの導入検討につきまして、ご説明した内容を踏まえ、導入の可否についてご意見、ご質問等がありましたら挙手をお願いします。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

例えば、乗合タクシーを林委員のところにバス停を置いてあしがるバスと繋いで運行するとなったときに、どうしても予約をするということがネックになると思います。

(林委員)

予約してその時間にタクシーがきちっと来てくれればいいですけど。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

実際のシステムとしては、お示ししてある2地区も同様ですが、まず、乗合タクシーの停留所を置きます。そこに乗合タクシーが来て、決まった時間に一番近いバス停に繋がるように運行するんですけど、1つネックなのが、タクシーを停留所まで呼ぶのを予約しておかなければなりません。

(林委員)

それは利用者が電話しないといけないんですよ。それはタクシー会社に電話ですか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

そうです。

(林委員)

利用者にはどうやって伝えるんですか。使いそうな人にパンフレット

か何かですか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

例えば、バス停や時刻表に分かるように案内を載せて、要は一番近いバス停と乗合タクシーの停留所との間を繋ぐもので、乗っているのはタクシーですが、バスのようにバス停の間を走り、あしがるバスのバス停で乗り継げるように考えています。

(林委員)

近くのあしがるバスのバス停まで運んでくれるってことですね。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

その通りです。それで、帰りも予約してあれば、その時間にあしがるバスのバス停から乗合タクシーの停留所まで運びます。ただ、予約制なので、あしがるバスみたいに時刻表の時刻に来るわけではないので、利用する本人に時刻表を見て予約してもらわないといけないんです。自宅の前にタクシーが来るわけではないので停留所にいてもらわないといけないんですけど、その停留所に来てもらうタクシーは自分で予約しないといけません。

(林委員)

それだけのことをしないとイケないわけですね。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

また、乗合タクシーの停留所も乗合タクシーの行く先のバス停もタクシーが待ってられる場所がなければいけないので、それを踏まえると市役所や駅などはタクシーが待ってられるが、そうなるとタクシーになってしまい民業圧迫になってしまいます。

(林委員)

そうだよ。タクシーになってはいけないよね。バス停まで運んでもらうだけだから。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

それだと、利用する人もなかなか少ないのではという懸念もあって。

(林委員)

難しいところですね。ある程度のところまで運んでくれると反って利用する人は逆に言うともちゃくちゃ増えてしまうし。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

そうすると、本来のタクシーを使ってもらえなくなるんです。

(林委員)

そうすると、導入というよりタクシー呼べばいいという話になります

よね。今、タクシーは高齢者の割引とかありますか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

本市はないと思います。障がい者の助成のみですね。

(山田委員)

新川タクシーで高齢者も割引ありますよ。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

それはタクシー会社の取組みで行政は関係していません。

(林委員)

タクシー会社の中でそういうサービスをしているってことですね。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

それで、なぜ乗合タクシーを検討したかということ、今、古城と廻間三丁目はバスが通っていないくて、バスを通してほしいという要望がありました。ただ実際にバスを通そうと思うと時間もかかるしなかなか難しいです。この乗合タクシーを導入しようとする、場所が必要なことと予約が必要なことが出てくるので、どうなのかなと思うところです。

(前田会長)

前田です。廻間三丁目のところに乗合タクシー専用のバス停を新設するというお話でしたが、今ご存じのように名鉄が新清洲駅から高架化の計画がされていますよね。これが、大体10年～15年先のことになると思いますが、高架化がされた段階では、現在のオレンジルートが廻間三丁目付近まで伸ばすという要望があれば考えていただけるんですか。私が考えているのは、あの地域には介護施設等がありますので高架ができれば国道302号も踏切の電車待ち無くして通すことができるので、将来的にそういう話があった場合は検討の余地はありますでしょうか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

それはもちろんあります。

(前田会長)

お願いします。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

今回の乗合タクシーの導入については、事務局から案は出してみたんですけども、正直時期尚早だと考えています。バス停をどうしても置いてほしいという要望から乗合タクシーを考えてはみたものの、知識不足もあって、まず、バス停での待機場所がなければ難しいと加藤先生からもご指摘いただきまして、この2つの案を考えましたが、実用的には難しいのではないかとの意見もあり、先ほど林委員がお聞きしたように予約制であるため、今現状としてあしがるバスの利用者を見ても、その

予約制というものが利用者の方々に馴染むかどうかと言われますとちょっと難しいと思います。ただ、今、前田会長からもありましたけど、将来的に高架化されてバスの延伸を考えた際、やっぱりバスの延伸では厳しいといったときに、こういう乗合タクシーを再度検討するということはあると思います。従って、今回の提案に対しては、少し時間をいただいて継続的な検討事項とさせていただきたいです。また、こういう可能性があるという案として残しておきたいという考えがありますので、今回は見送りますが今後も検討課題ということで継続して考えていくということによろしいでしょうか。

[異議なしの声]

ありがとうございます。

(炭竈企画政策係長)

それでは、本件につきましては、ご承認いただいたということでこれからその方向で進めさせていただきます。

では、最後にその他、本日の会議全般について、ご意見、ご質問等がありましたら挙手をお願いします。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

それから、グリーンルートの増車の案につきましても、先ほど説明いたしましたますが、コロナの影響で乗車人数も減っているという状況で、現状グリーンルートの積み残しも減ってきているということで増車は見送りたいと考えていますが、この件に関してご意見がありましたらお伺いしたいのですが。

(山田委員)

予算がないんじゃないの。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

それは正直なところあります。現状で6,000万円近い赤字が出ている状況で運行しています。もし、コロナがなく現状を迎えていたとしたら今グリーンルートは限界に近くなっていると思います。令和元年度の流れから考えていくと、この2年で厳しくなるだろうと予想はしていました。ただ実際には増車をしないと対応できない乗車人数ではなくなってきましたので、将来的にグリーンルートの増車もしくは分割して1本ずつルートをつくるという案が出てくると思いますが、今回に関しては現在乗車率が減っていることから増車については見送らせていただきたいと思いますようお願いしてよろしいでしょうか。

[異議なしの声]

ありがとうございます。

では、このほかに何かご意見等がありましたら自由にご発言くださ

い。

(林委員)

今、車いすで利用される方はおりますか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

います。車いすで乗られる方はおりますので、事前に連絡をもらって何分のどこから乗車するかをバス会社の方へお伝えして無線でドライバーの方に連絡してもらおうといった対応が先週もありましたので、少数ではありますが利用される方はおられます。

(林委員)

そういう方はタクシーとか使えませんか。福祉タクシーとか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

使えると思います。タクシー助成かガソリン代のどちらかの補助を選択できるので利用できると思います。

(市江主事)

ここで、鬼頭委員からその他意見としてダイヤについての意見もいただいておりますので、ご紹介いたします。JRの枇杷島駅と清洲駅でのあしがるバスの乗継利便性を良くしてほしいというご意見をいただきました。こちらは、今回ルートのみでの改正素案でしたので、次回のダイヤを含めた改正案を作る際は、鉄道との乗継利便性を考慮しながら検討・作成していきたいと考えております。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

鉄道との乗り継ぎは、こちらが合わせても鉄道ダイヤは変わってしまうことも多いんです。

また、最近台風があった時の話ですが、その時に朝2件電話がかかってきて、「今日バス運行してますか。」と尋ねる要件の電話だったんです。ということは、自分たちの足としてバスを利用される方が多いんだなということを感じたところです。バスがないと医者に行けなくて困るとあしがるバスを必要としていただいていることは非常に嬉しいことでした。そういう方もお見えになるものですから、地域公共交通というのは、あしがるバスも含めて守っていかなければならないと改めて感じました。皆様方も市民委員として意見をいただいておりますので、これからもどんどん意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

(炭竈企画政策係長)

ほかにご意見等はございますか。

それでは、他にご意見も無いようですので、その他につきましては、これで終了させていただきます。

以上で、予定しておりました議事は全て終了いたしました。長時間に

わたり、誠にありがとうございました。

これをもちまして、令和3年度清須市地域公共交通会議専門部会を閉会させていただきます。

3 閉会（午後2時40分）

問い合わせ先

企画部 企画政策課

052-400-2911 内線3214

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

会 長 前田 繁一

署名委員 佐藤 あつ子

署名委員 柴田 孝子